

待機児童が大東地区と福原地区に集中している要因について（考察）

【待機児童の地区別人数（過去3か年）】

	令和2年4月	令和3年4月	令和4年4月
本庁地区			2人
芳野地区			
山田地区			
古谷地区			
南古谷地区			
高階地区		2人	
福原地区	2人	5人	1人
大東地区		1人	5人
霞ヶ関地区			
川鶴地区			
霞ヶ関北地区			
名細地区			

待機児童数を算出する際には、申込み児童数から保育所等利用決定児童数を差し引き、さらに、待機児童数から除く児童として、育児休業中の保護者のうち、保育園入所後の復職の確認ができない者、求職活動中の保護者のうち、求職活動を休止している者、他に利用可能な保育所等があるにも関わらず、特定の保育所等を希望している者等を差し引いて算出しています。

福原地区につきましては、認可保育所等が1箇所しかないことにより、「他に利用可能な保育所等があるにも関わらず、特定の保育所等を希望している者」に該当しなくなるため、待機児童として計上される傾向があります。

また、大東地区につきましては、空きのある保育施設等がなかったために、福原地区同様、「他に利用可能な保育所等があるにも関わらず、特定の保育所等を希望している者」に該当しなくなるため、待機児童として計上されています。

このようなことから、2地区（福原・大東地区）が市内地区内において、待機児童数が多かったと推測されます。

※「他に利用可能な保育所等があるにも関わらず、特定の保育所等を希望している者」
通常交通手段により、自宅から20～30分未満で登園が可能な保育園等があるにも関わらず、その保育園を希望していない場合